



1.崖に見立てたのはバナナの皮 2.糊もほぼ使用しないため慎重に重ねていく  
3.細部にまで植物を使用する 4.植物の根で木の枝を表現する

**押し花人口を増やして  
もっと手軽に楽しめるように**

押し花人口を増やして  
もっと手軽に楽しめるように

レットや本その場所に行つて撮影した写真からインスピレーションを受けて作品のテーマを決める。テーマが決まると真っ白な台紙の上に下書きは一切せず、風景の奥から順番にピックアップを使い押し花を丁寧に重ねて置いていく。山脈はキヤベツ、岩は木の皮、生い茂った葉は苔を使用するなど、作りたいイメージで適した素材を使い表現する。また平面の台紙の上で風景の遠近法を表現するため、奥の木を少し白っぽくしたり、オーガンジーを重ねるなどの技法も用いられる。歩いている人や小屋など筆ではなく押し花を使う細やかな作業の連続はまさに職人技だ。

「豊田の三河湖のそばに住んでいた兄弟や、白馬村にいる娘夫婦が綺麗な花が咲きそうだよ」と連絡をくれるんです。花は満開の時ではなくて咲いた時が一番綺麗なのでそこを逃さないようにしています。あと、なんでも押してみたくなるので最近ではパプリカや大根も細く切って押しでみました」と話す鈴木さん。長年この作業によって作られた押し花は衣装ケース2つ分にも達していた。

風景画の中でも特に山や滝、冬の景色が好きな鈴木さんは、パンフ



卷頭特集 知れば知るほど楽しい押し花の魅力を発信

## ふしき花俱楽部インストラクター

# 鈴木三重子さん

子どもの頃、摘んだ花やクローバーを本で押して葉にする。そんな体験を懐かしく思い出す人も多いのではないだろうか。押し花教室を主催する鈴木さんが作る作品には、そんな押し花の概念が変わるような珍しさとインパクトがある。今回は鈴木さんに押し花の魅力や楽しみ方を聞いてみた。



### **information**

作品展

## ブリザードフラワー、 伝筆とのコラボ開催

日時 12/9、10、11 10時～16時  
場所 旧恵瑠風（エルフ）  
愛知県愛西市山路町

木さんの



## きつかけは珍しい 押し花の風景画との出会い

立てなどを制作する。親子連れからお年寄りまで幅広い年代の方々が参加し、たくさん並べられた押し花から時間をかけて自分の好きな色や形の花を選んで並べていく。完成した時にはとても嬉しそうで、「楽しかった」と満足げに言つてもらえることが鈴木さんのやりがいになっている。

「本物の植物を使って、自分らしさを表現できるところが押し花の魅力だと思います。もっと多くの方に押し花に触れ楽しんでいただきたいので、これからも体験教室を続けていこうと思います。興味のある方はお気軽にご参加お待ちしております」と鈴木さん。今年の12月には鈴木さんと生徒の作品が飾られた作品展が愛西市で開催される。実際に見て押し花の奥深さや美しさ、きめ細やかさを感じてみてはいかがだろうか。

続けていくうちに少しずつ上達していきました」と鈴木さんは笑顔で話す。現在は完全受注制で商品を作つており、誕生日や母の日、ウェルカムボードなど記念日のプレゼントでの依頼が多い。そうした依頼が来た時には「時間があればご自身で作つてみませんか?」と声かけをするという。SNSや電話で打ち合わせをし、鈴木さんが作ることもできるが、実際に本人が押し花を見て悩みながら完成した作品は、より思い入れがある素敵なものになると鈴木さんは考へているからだ。

通つた。受講が終了した2014年には自宅にて「押し花教室\*鈴花\*」を開講。生徒一人一人をしつかりと見たいという思いからマンツーマンを基本としたレッスンを行なっている。

## 自然を植物で表現することでより奥深くリアルに

作品作りや教室、押し花を育てて押す作業など押し花に触れていない日はほぼないという鈴木さん。その素材にもかなりのごだわりを持つて

